

令和6年度 月影保育園 施設の自己評価について

今年度は、園児の出入りが激しい年でした。49人でスタートし、5月に2人増え、6月に6人増え、8月に2人増え、59人になりました。新入園児が入ると、クラスの雰囲気が変わりそれぞれの担任が工夫して対応して行った。

年度当初に保育の全体計画、年間計画、月計画、週計画を子どもの発達状況に合わせ作成し、クラス人数も変わるので、随時見直しをしながら実践して行った。

毎月の計画は、行事や活動等、子どもの表れ等、前月の反省をして、それを踏まえて次月の計画を立て、さらに活動の目的を確認し、実施方法等、中身を精査して実行していった。

例年通り、お散歩で季節ごとの植物を見つけたり、地域の人達とふれ合ったり、畑や花壇での野菜作りする等の本園の特色である活動は、実施計画やマニュアルを作成しながら実施した。今後も、他の園にない本園ならではの体験活動を、さらに意義のあるものになるよう工夫していきたい。

保育室は、換気を心掛け、随時清掃を行って行った。空気清浄器や加湿器も稼働させ、乾燥を防ぐようにした。そんな中で、子どもたちは、遊びを工夫し元気に活動していた。また、室内や廊下に不必要なものは置かないようにし、安全面と共に、自然の風が入るよう心掛けている。

屋外の砂場や遊具は、引き続き安全面と衛生面の両面から常にチェックした。不備を見つけたら、すぐに報告、連絡することを忘れないようにしている。今年度は、園庭の机を補修した。

今年度も、①保育の理念、保育観、②保育の内容。③保健、安全管理、④保護者、地域社会との連携。⑤保育士としての資質向上、について自己評価を実施した。

①については、性差や個人差に留意し、一人ひとりの子どもに目が行き届いていたか振り返りながら保育していくことの大切さを確認し合った。②では、見通しを持って計画をたて、一人一人に目を向け、その子に応じた言葉かけや対応をすることをあらためて確認し合った。③では、全職員で常に情報を共有していくことの大切さを確認した。④では、保護者の悩みや心配事を一緒に考えていける保育者であるよう、さらに努力していくこと、地域社会にも目を向けていくことを確認した。⑤は、各個人が自分の課題を見つめ、同僚や上司とも意見交換しながら自己研鑽していくことを確認した。

身体測定、おつとめ、避難訓練等は、毎月行い、子供をしっかり見つめ、子どもの成長・変化を捉える場にした。運動会は幼児のみで合同で行った。生活発表会については、全員で行う形から、時間差でクラス毎に分けて行う形に変えた。今後も、子どもや保護者にとって、より中身の濃いものになるよう工夫して行きたい。保護者面談は、機会を増やしながら今後も続けて行きたい。

以上の事を、全職員で自己評価しました。これをもとに、次年度も、さらに質の高い保育を目指していきます。